

<R7 中之島小学校 国際科 重点目標>

英語活動を通して、コミュニケーション能力や対話力の育成を図る。

【自己評価】

	評価項目	評価基準	評価
成 果	(1) いろいろな人（友達や外国の人など）とコミュニケーションを図っている。	A：肯定的評価が80%以上 B：70%以上 ○児童アンケート 「いろいろな人（友達や外国の人など）とコミュニケーションを楽しむことができた。」 ○保護者アンケート 「国際科の授業に楽しく参加することができた」	A
	(2) 国際交流会等、外国の人々と関わる活動を通して、自国や他国の文化・伝統のよさに気付いている。	A：肯定的評価が80%以上 B：70%以上 ○児童アンケート 「活動を通して、外国と日本の違いやよさを感じることができた。」 ○授業後の振り返り	A
教育 活動	(1) ゲームやインタビューなど、ねらいに応じたコミュニケーション活動を取り入れることができたか。	A：毎回実施した。 B：2回に1回以上実施した。	A
	(2) 歴史や文化など、各国の特徴的な内容を取り上げ、外国や日本の違い、よさを感じさせることができた。	A：各学期に1回以上実施した。 B：各学期に1回以上実施できなかった。	A
運 営 活 動	(1) ALTとの打合せの時間を確保するために、事前に各担任と確認し、時間の調整を行う。	A：80%以上ALTと直接打合せすることができた。 B：79%以下しかできなかった。	A
	(2) 外国の人と交流する機会を設ける。	A：各学年、年間1回以上、交流の機会を設けることができた。B：一部の学年しかできなかった。	A

【自己評価 考察】

- ・重点目標は達成していると言える。
- ・児童アンケートから、英語を介して、友達や外国の人とのコミュニケーションをとることを楽しむことができたと言える。
- ・通常の授業では、ICTを活用してのゲームやインタビューなどを行った。ペアで行ったり、児童を数グループに分けて行ったりして、楽しみながら学習していた。

- ・国際理解教育については、国際大学の5人の留学生が3回にわたって来てくれた。今年度は、各国の紹介が1時間、その後小グループでの交流会を1時間とるなど、充実した活動ができた。その中で、児童たちは自分の好きな食べ物などを英語で紹介することができた。
- ・ALTとの打ち合わせについては、今年度も全時間、きちんと行うことができた。そのおかげで、活動が停滞することなくスムーズに進めることができた。今後も時間を捻出し、打ち合わせを行うことが大切である。



**【学校関係者評価】 評価委員 6人**

評価項目	評価基準	評価
中之島小学校の国際科の取組は、重点目標を達成している	A：肯定的評価が5人以上 B：4人以下	A

**【学校関係者評価 考察】**

- ・校区内にある舞子スノーリゾートでは英語や中国語などが飛び交っている。その現状から当地区は、今よりも外国の方々とのコミュニケーションを取ることの重要性が高まっていく。小学校段階で、もっと外国語に親しみ、外国の方とのコミュニケーションが楽しい、という子どもを育てていくことが極めて重要である。